

奥監第24号  
令和5年8月22日

奥出雲町長 糸原 保 様

奥出雲町代表監査委員 谷 尻 一 徳



奥出雲町監査委員 内 田 雅 人



令和4年度奥出雲町水道事業会計決算審査について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された令和4年度奥出雲町水道事業会計の決算等について審査した結果を、次のとおり意見を付して報告します。

## 令和4年度奥出雲町水道事業会計決算審査について

### 1 審査の対象

令和4年度奥出雲町水道事業会計決算並びに証書類、事業報告書及び地方公営企業法施行令第30条に定めるその他の書類（キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書、企業債明細書）

上記決算について作成すべき書類(決算報告書、損益計算書、剰余金計算書、剰余金処分計算書及び貸借対照表)

### 2 審査の期間

令和5年8月1日から8月22日まで

### 3 審査の方法

審査に付された水道事業会計決算書等について、関係法令及び奥出雲町監査基準に準拠して作成されているかどうか、また決算の計数は正確であるかどうかを関係諸帳簿、証書類との照合等通常実施すべき審査を行ったほか、各課長他担当職員の説明を聴取して実施。

### 4 審査の結果

審査に付された決算書類は、地方公営企業会計の関係基準に準拠して適正に作成され、関係帳票及び証書類との照合の結果、計数は正確であり、また、水道事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認めた。

## 1. 水道事業会計決算の状況

### (1) 業務の状況

#### ①給水状況

上水道事業へ移行して六期目となる令和4年度の年間配水量は1,484,563 m<sup>3</sup>（対前年度比99.2%）、年間有収水量は1,191,282 m<sup>3</sup>（同98.5%）となり、有収率は80.2%（同99.3%）となっています。また、年度末における給水人口は11,285人（同97.5%）、給水戸数は5,045戸（同98.6%）であり、水道給水率は98.7%となっています。

事 項	令和4年度	令和3年度	対前年度比較		
			増 減	比 率	
年度末給水人口	11,285 人	11,579 人	△ 294 人	97.5 %	
年度末給水戸数	5,045 戸	5,117 戸	△ 72 戸	98.6 %	
配 水 量	年 間	1,484,563 m <sup>3</sup>	1,495,840 m <sup>3</sup>	△ 11,277 m <sup>3</sup>	99.2 %
	1月平均	123,714 m <sup>3</sup>	124,653 m <sup>3</sup>	△ 939 m <sup>3</sup>	99.2 %
有収水量	年 間	1,191,282 m <sup>3</sup>	1,209,036 m <sup>3</sup>	△ 17,754 m <sup>3</sup>	98.5 %
	1月平均	99,274 m <sup>3</sup>	100,753 m <sup>3</sup>	△ 1,479 m <sup>3</sup>	98.5 %
有 収 率	80.24 %	80.83 %	△ 0.59 %	99.3 %	

#### ②建設改良工事等の状況

建設改良工事等の状況では、横田配水池耐震化事業として建設工事1件を実施、漏水不明箇所の改良工事として大馬木地区堅田配水区配水管移転工事を1件、水道管支障移転工事として5件を実施しています。

横田配水池耐震化事業は、配水池築造工事を実施しています。

業務委託の状況では、耐用年数を超過した水道管の更新をするため、水道管路緊急改善事業として水道管路更新計画策定業務1件、水道管路更新実施設計業務1件を実施しています。

### (2) 予算の執行状況

#### ①収益的収入及び支出（税込額）

収益的収入及び支出は、企業の経済活動に伴い発生する収益とこれに対する費用です。令和4年度の収入にあたる水道事業収益は、予算額685,622千円に対し、決算額は682,031千円となっています。営業収益の主なものは水道料金であり、営業外収益の主なものは、長期前受金戻入や他会計繰入金です。

支出にあたる水道事業費用は、予算額667,018千円に対し、決算額は624,444千円となっています。営業費用の主なものは、減価償却費や修繕費であり、営業外費用の主なものは支払利息です。

令和4年度の収益的収入及び支出の執行状況は、次表のとおりです。

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度					
	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額との 増 減 (A)－(B)	執行率 (B)/(A)	決算構成比	備 考
水道事業収益	685,622	682,031	3,591	99.5	100.0	
営業収益	248,662	247,805	857	99.7	36.3	
営業外収益	434,074	431,402	2,672	99.4	63.3	
特別利益	2,886	2,824	62	97.9	0.4	
水道事業費用	667,018	624,444	42,574	93.6	100.0	
営業費用	608,017	566,488	41,529	93.2	90.7	
営業外費用	54,954	54,895	59	99.9	8.8	
特別損失	3,347	3,061	286	91.5	0.5	
予備費	700	0	700	0.0	0.0	

## ②資本的収入及び支出（税込額）

資本的収入及び支出は、将来にわたり経営の安定を図るための設備投資に係る収入と、これに対する費用です。令和4年度における資本的収入額は、予算412,461千円に対し、決算額は395,205千円となっています。資本的収入の主なものは、他会計繰入金及び企業債です。

資本的支出額は、予算額620,757千円に対し、決算額は569,957千円となっています。資本的支出の主なものは、企業債償還金及び建設改良費です。

この結果、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額174,752千円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額16,628千円、当年度分損益勘定留保資金136,004千円及び減債積立金取りくずし額22,120千円で補填されています。

令和4年度の資本的収入及び支出の執行状況は、次表のとおりです。

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度					
	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度 繰越額 (C)	予算額との 増 減 (A)－(B)－(C)	執行率 (B)/{(A)－(C)}	決算構成 比
水道事業資本的収入	412,461	395,205	0	17,256	95.8	100.0
企業債	197,600	184,000	0	13,600	93.1	46.6
工事負担金	8,600	4,944	0	3,656	57.5	1.2
他会計繰入金	201,679	201,679	0	0	100.0	51.0
基金繰入金	4,582	4,582	0	0	100.0	1.2
水道事業資本的支出	620,757	569,957	0	50,800	91.8	100.0
建設改良費	245,601	198,614	0	46,987	80.9	34.8
企業債償還金	374,451	371,342	0	3,109	99.2	65.2
基金積立金	5	1	0	4	20.0	0.0
予備費	700	0	0	700	0.0	0.0

(3) 収益・費用の状況（税抜額）

令和4年度における収益・費用の状況は、営業収益が225,372千円、営業費用が557,068千円となり、営業損失は331,696千円となっています。また、営業外収益は429,133千円、営業外費用は55,982千円で41,455千円の経常利益となり、これに特別利益2,824千円、特別損失3,063千円を計上し、当年度純利益は41,216千円となっています。その結果、前年度繰越利益剰余金74,293千円、その他未処分利益剰余金22,120千円を加え、当年度未処分利益剰余金は137,629千円となっています。

令和4年度の収益・費用の状況は次表のとおりです。

奥出雲町水道事業損益計算書  
(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	増減額 (A)－(B)
営業収益	225,372	228,692	△ 3,320
給水収益	223,081	225,856	△ 2,775
その他営業収益	2,291	2,836	△ 545
営業費用	557,068	546,868	10,200
原水及び浄水費	69,259	66,207	3,052
配水及び給水費	25,396	23,779	1,617
総係費	37,163	40,688	△ 3,525
減価償却費	421,428	414,506	6,922
資産減耗費	3,822	1,688	2,134
営業損益	△ 331,696	△ 318,176	△ 13,520
営業外収益	429,133	450,534	△ 21,401
受取利息及び配当金	2	4	△ 2
他会計繰入金	145,368	161,241	△ 15,873
長期前受金戻入	283,762	288,066	△ 4,304
雑収益	1	1,223	△ 1,222
営業外費用	55,982	62,429	△ 6,447
支払利息及び企業債取扱諸費	51,669	59,506	△ 7,837
雑支出	4,313	2,923	1,390
経常損益	41,455	69,929	△ 28,474
特別利益	2,824	2,301	523
他会計繰入金	0	55	△ 55
長期前受金戻入	2,824	2,246	578
特別損失	3,063	101	2,962
過年度損益修正損	3,063	46	3,017
その他特別損失	0	55	△ 55
当年度純損益	41,216	72,129	△ 30,913
前年度繰越利益剰余金	74,293	2,164	72,129
その他未処分利益剰余金	22,120	0	22,120
繰越利益剰余金（又は繰越欠損金）	137,629	74,293	63,336

(4) 資産・負債・資本の状況（税抜額）

令和4年度末時点の財政状態は、資産合計が8,591,230千円（固定資産8,359,216千円、流動資産232,014千円）で、負債合計が6,928,921千円（固定負債2,985,737千円、流動負債467,901千円、繰延収益3,475,283千円）となっています。

資本合計は1,662,309千円（資本金1,448,939千円、剰余金213,370千円）となっています。

令和4年度の資産・負債・資本の状況は次表のとおりです。

奥出雲町水道事業貸借対照表  
（令和5年3月31日）

（単位：千円）

科 目	残 高	科 目	残 高
固定資産	8,359,216	固定負債	2,985,737
有形固定資産	8,317,541	企業債	2,985,737
土地	62,748	流動負債	467,901
建物	299,147	企業債	363,637
構築物	8,617,138	未払金	101,956
機械及び装置	1,742,144	引当金	1,908
車両運搬具	1,147	預り金	400
工具、器具及び備品	285	繰延収益	3,475,283
建設仮勘定	329,826	長期前受金	5,305,093
減価償却累計額	△ 2,734,894	国県補助金	2,883,124
投資・その他の資産	41,675	他会計繰入金	2,163,633
基金	41,675	工事負担金	243,163
流動資産	232,014	分担金及び負担金	15,173
現金預金	206,127	長期前受金収益化累計額	△ 1,829,810
未収金	23,914	負債 合計	6,928,921
営業未収金	21,273	資本金	1,448,939
営業外未収金	2,641	固有資本金	1,229,839
貸倒引当金	△ 978	繰入資本金	219,100
貯蔵品	2,731	剰余金	213,370
前払費用	220	資本剰余金	22,861
		利益剰余金	190,509
		資本 合計	1,662,309
資産 合計	8,591,230	負債・資本 合計	8,591,230

(5) 企業債の状況

令和4年度の企業債は、新たな借入が2件、184,000千円（利率0.50%）で、本年度償還高は371,342千円でした。この結果、本年度末の企業債の状況は、平成5年度以降の借入分が61件で、企業債残高は3,349,374千円となっています。

（単位：千円）

借入先	前年度末残高	本年度借入高	本年度償還高	本年度末残高
財務省	3,308,165	184,000	339,526	3,152,639
地方公共団体 金融機構	210,001	0	27,746	182,255
その他金融機関	18,550	0	4,070	14,480
計	3,536,716	184,000	371,342	3,349,374

(6) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フロー計算書は、当年度純利益を起点とし、これに調整項目を加減算することによって、純粋な現金の増減を表示するものです。業務活動によるキャッシュ・フローは174,323千円、投資活動によるキャッシュ・フローは115,733千円、財務活動によるキャッシュ・フローは△187,342千円で、令和4年度の資金増加額は102,714千円となり、資金期末残高は206,127千円となっています。

令和4年度キャッシュ・フロー計算書は次表のとおりです。

奥出雲町水道事業キャッシュ・フロー計算書  
（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

（単位：千円）

1. 業務活動によるキャッシュ・フロー

項目	令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	増減 (A)-(B)
当年度純利益	41,216	72,129	△30,913
減価償却費	421,428	414,507	6,921
資産減耗費	3,822	1,688	2,134
賞与引当金の増減額（△は減少）	△101	△203	102
法定福利費引当金の増減額（△は減少）	△11	△38	27
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△287	△308	21
長期前受金戻入額	△286,586	△290,312	3,726
受取利息及び配当金	△2	△4	2
支払利息及び企業債取扱諸費	51,669	59,506	△7,837
未収金の増減額（△は増加）	△1,740	26,174	△27,914
貯蔵品の増減額（△は増加）	46	103	△57
前払費用の増減額（△は増加）	△9	△11	2
未払金の増減額（△は減少）	△3,456	2,005	△5,461
預り金の増減額（△は減少）	0	△42	42
小計	225,989	285,194	△59,205
利息及び配当金の受取額	3	4	△1
利息の支払額	△51,669	△59,506	7,837
業務活動によるキャッシュ・フロー	174,323	225,692	△51,369

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー

項 目	令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	増 減 (A)-(B)
有形固定資産の取得による支出	△95,471	△154,660	59,189
基金の預入による支出	△1	△3	2
国県補助金による収入	0	2,923	△2,923
他会計からの繰入金による収入	201,679	210,963	△9,284
工事負担金による収入	4,944	2,779	2,165
基金の取り崩しによる収入	4,582	0	4,582
投資活動によるキャッシュ・フロー	115,733	62,002	53,731

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー

項 目	令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	増 減 (A)-(B)
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	184,000	132,200	51,800
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△371,342	△385,577	14,235
一般会計からの出資による収入	0	4,200	△4,200
財務活動によるキャッシュ・フロー	△187,342	△249,177	61,835

資金増加額（又は減少額）	102,714	38,517	64,197
資金期首残高	103,413	64,896	38,517
資金期末残高	206,127	103,413	102,714

(7) 水道料金等の収納状況及び滞納状況

①水道料金の収納状況

水道料金の収納状況について、現年度分は、調定額 245,389 千円に対し収入済額が 226,425 千円で、収納率は 92.3% となり、未収額は 18,964 千円となっています。過年度分は、期首未収額 22,150 千円に対し、収入済額が 19,721 千円で、収納率は 89.0% となっています。また、過年度分のうち、110 千円、3 名（58 月分）を不納欠損として処理しており、過年度分の未収額は 2,319 千円となっています。

令和4年度における水道料金の収納状況は次表のとおりです。

(単位：千円、%)

区 分	調定又は 期首未収額	調定更正額	収入済額	不納欠損額	未収額	収納率
現年度分	245,389	0	226,425	0	18,964	92.3
過年度分	22,150	0	19,721	110	2,319	89.0
合 計	267,539	0	246,146	110	21,283	92.0



②水道料金等の滞納状況

令和4年度末時点における水道料金等の滞納状況は、令和4年度分が5,156件、18,964千円、令和3年度以前分が166件、2,319千円で、合計5,322件、21,283千円となっています。

水道料金等の滞納状況の内訳については次表のとおりです。

(上段：件数、下段：金額(単位千円 未満四捨五入) (単位：千円)

種 別	4年度 滞納額	令和4 年度分	令和3 年度分	令和2 年度分	31	30	29	28	27	26年度 以前分
水道分担金	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
水道料金	5,322 21,283	5,156 18,964	24 235	30 294	16 124	7 16	24 110	14 43	7 19	44 1,478
合 計	5,322 21,283	5,156 18,964	24 235	30 294	16 124	7 16	24 110	14 43	7 19	44 1,478

(8) 基金の状況

令和4年度における基金の状況については次表のとおりです。

(単位：千円)

資 産 の 種 類	年度当初 の現在高	当 年 度 増 加 額	当 年 度 減 少 額	年 度 末 現 在 高	備 考
水道事業基金	46,256	1	4,582	41,675	
合 計	46,256	1	4,582	41,675	

## 2. 今後の課題

- (1) 業務の状況について、有収率は80.24%で、昨年度の80.83%と比較すると0.59%減少していますので、更なる取組みが必要と考えます。  
今後、人口減少等に伴い経営環境は厳しさを増し、今まで以上に経営の効率化が求められることが予想されます。そのため、有収率や施設利用率の向上を図り、より一層効率的な運営に努められることを望みます。
- (2) 収益・費用の状況について、当年度純利益は41,216千円となり、昨年度の72,129千円と比較して減少しています。今後も引き続き、収益の増や経常経費の削減等、更なる経営改善を図る対策並びに適正な料金改定をご検討ください。
- (3) 財政の状況については、企業債残高が3,349,374千円と多額となっていますが、それ以外に一時借入金や外部負債はないことから、現時点では経営上支障なく運営されているものと考えます。今後も企業債残高の縮減を図っていく等、更なる経営基盤の強化に努めて頂きたいと思えます。
- (4) キャッシュ・フローの状況については、資金の期末残高が昨年度と比べ増加しています。水道水の安定供給を維持していくためにも、老朽化した資産を計画的に更新していかなければならないことから、多額の資金が必要となるものと予想されます。今後の更新投資を見据え、資金を確保していく必要があるものと考えます。
- (5) 水道料金の滞納状況については、現年度分の未収額は昨年と比較し減少しており、過年度分未収額も年々減少しています。引き続き滞納額の解消に努め、経営の健全化を図って頂きたいと思えます。